



真っ黒なハチのハンターに 魅せられて

ムシヒキアブって？

ムシヒキアブ科 Asilidae はハエ目 Diptera の中でもオドリバエ科 Empididae やアシナガバエ科 Dolichopodidae とともに、成虫が捕食性のグループです。日本から約 70種（世界に約 5,000種）が知られており、いろいろな昆虫やクモなどを捕食しますが、当然な

がら、自分の体力に相応したもの、生息場所や活動時間が一致したものが捕獲の対象となります。ただし、種によって、ある程度食べ物の好みがあるようです。アシナガムシヒキ類やハラボソムシヒキはハチ類を、シオヤアブはコガネムシ類を、マカリケムシヒキ類やサキグロムシヒキはハエ目を好んで食べることが知られています。

36年ぶりの再発見

- カノウアシナガムシヒキ -

1997年に長野県下伊那郡大鹿村周辺で見慣れない真っ黒なムシヒキアブの標本が得られました。その当時はハチ目やハエ目に本格的に取り組み始めたばかりだったので、文献も標本も情報もほとんど持っておらず、まったく種名がわかりませんでした。

「真っ黒なムシヒキアブの正体を何

としても知りたい」と思い、1998年3月に日本で唯一のハエの同好会である双翅目談話会の同定会に標本を持っていき、ムシヒキアブ科を研究されている春沢圭太郎氏に同定依頼をしました。

しばらくして、春沢氏から本種がカノウアシナガムシヒキ *Molobratia kanoi* Hradsky, 1980 であり、1961年4月30日に群馬県前橋市で が採集されて以来、実に、36年ぶりの再発見であるというびっくりする連絡をもらいました。

そして、その年の6月に春沢氏らと大鹿村周辺に調査に行き、運良く本種が多数生息している場所を見つ

け、じっくりと観察する機会に恵まれました。

それらの経緯やその時の観察結果などについては春沢氏と共著で双翅目談話会の「はなあぶ」No.6に『長野県でカノウアシナガムシヒキ *Molobratia kanoi* Hradsky を再発見』というタイトルで報告しています。

その後は、毎年のように大鹿村周辺にカノウアシナガムシヒキの調査に行くようになり、少しづつではありますが、分布調査や生態観察をしています。同時に、他のハエ目やハチ目、カメムシ目なども採集するようになり、それらの記録についても少しづつ報告しています。

が を食べる

日本最大のムシヒキアブ

- メスアカオムシヒキ -

南西諸島に分布する日本最大のムシヒキアブであるメスアカオムシヒキは、大型昆虫を捕食することが知られていて、セミ類やコガタズメバチなどの捕食例を図鑑などで見たことがあります。

実際に、私も石垣島のオモト岳でメスアカオムシヒキを採集したことがあるのですが、が を食べていたので、一度にともゲットできて嬉しかった覚えがあります。後にも先にもムシヒキアブ科で が を食べている場面に遭遇したのはこれっきりですが、もしかしたら頻繁に起きていることかも知れません。



カノウアシナガムシヒキ (A, B : [1998.06.07 採集の同一個体] C, D : [1998.06.08 採集の同一個体])

参考・引用文献

「長野県でカノウアシナガムシヒキ *Molobratia kanoi* Hradsky を再発見」(伊東憲正・春沢圭太郎 双翅目談話会「はなあぶ」6 pp.11-15 1998)